



# Governor's Monthly Letter

Vol.10  
2017年4月号



2016-17年度 国際ロータリー  
第2710地区 ガバナー

**田原 穎一**

GOVERNOR: Eiichi Tahara  
HIROSHIMA CENTER  
ROTARY CLUB

## 「母子の健康月間」

4月は、「雑誌月間」から「母子の健康月間」になりました。世界では、毎年700万人以上の子どもたち(5歳未満)が栄養失調、不健康、不衛生のために命を落としています。また、サハラ以南のアフリカでは、39人に1人の女性が妊娠中または出産による合併症で死亡しています。更に、リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)を望む女性が2億1,500万人と推定されています。

そこで、ロータリーは、このような現状を改善するため、乳幼児への予防接種、基本医療の提供、産婦人科・小児科を専門とする人材育成に加え、現地の人びとが自らの手で医療研修プログラムを継続できるよう支援しています。

ロータリー財団は、以下の目的と目標を掲げています。

- 1.5歳未満の幼児の死亡率と罹患率の削減
  - 2.妊婦の死亡率と罹患率の削減
  - 3.より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供、地域社会の医療／保健関係のリーダーと医療提供者を対象とした母子の健康に関する研修
  - 4.母子の健康に関連した仕事で活躍していくことを目指す専門職業人のための奨学金の支援
- ロータリーの具体的な活動として、子どもの健康のためには、母乳の奨励など適切な栄養摂取の大切さを呼びかけ

る、予防ワクチンや抗生物質を提供する、母からの子へのHIV感染を予防する等が挙げられます。また、リプロダクティブ・ヘルスの医療および医療従事者への研修を充実させることにより、妊産婦の死亡の80パーセントを防げることが分かっています。また、妊婦医療プロジェクトで避妊方法についての教育や避妊具を提供することにより、妊婦の死亡率を3分の1近く減らすことができます。そこで、ロータリーは、医療従事者を対象として公認研修プログラムを支援しています。

現在、世界で各クラブは母子の健康のための様々なプロジェクトを開催しています。我が地区においても、グローバル補助金を用いて母子の健康に取り組んで頂くことを要望します。

尚、リプロダクティブ・ヘルスとは、「人間の生殖システムおよびその機能と活動過程のすべての側面において、単に疾病、障害がないというばかりではなく、身体的、精神的、社会的に完全な良好な状態にあること」を指します。これは、人々が安全で満ち足りた性生活を営むことができ、生殖能力を持ち、子どもを持つか持たないか、いつ持つか、何人持つかを決める自由を意味し、1994年カイロ国際人口・開発会議で採用された文章に基づいています。この概念は、生殖年齢にある男女のみならず、青春期以降、生涯にわたる性と生殖に関する健康を意味し、子どもを持たないライフスタイルを選択する人々を含めた、すべての個人に保障されるべき健康概念です(国際保健用語集より)。

最後に、RI重点分野担当マネジャーは、6つの重点分野で活動するロータリアンに支援と助言を提供し、プロジェクトの立案、新しい推進計画、補助金についての相談も受けています。重点分野のプロジェクトを立ち上げる時、是非、重点分野担当マネジャーに相談されることをお勧めします。



人類に奉仕するロータリー



## contents

ガバナーメッセージ	1	[ガバナー月信2017年4月号]
「母子の健康月間」によせて	2	
2016-17年度中四国3地区合同オリエンテーション報告	3	
G4 IM 報告	4	
G8 IM 報告	5	
G1・G2 合同IM 報告	6	
会員増減・出席率	7	
がんを防ぐための新12ヶ条	7	
新会員紹介	8	
ロータリー文庫	8	



## 「母子の健康月間」によせて

国際ロータリー第2710地区 パストガバナー 金子 克也

「母子の健康」は、ロータリー財団が掲げる他の五つの分野と相互に補完し合いながら、健康な人の誕生・成長支援を通じて、世界平和達成を願うロータリーの最も重要な根源的な活動テーマです。2008年 李 東建RI会長は、新生児・乳幼児の高い死亡率を憂い、この改善を全世界のロータリアンに強く訴えられました。

このテーマは、国連開発計画※1の中で、「新しいものさし」SDGs※2の17目標の一つにも掲げられています。

### A:新生児・乳幼児の死亡

#### 1)新生児死亡率※3:

2012年最悪国シエラレオネ…50、2013年ベスト国日本、アイスランド…1、世界平均…21。目標…8の達成国 51/186ヶ国

#### 2)乳幼児死亡率※4:

最良国…2、世界平均は1990年の91→34(2013年)に低下。2008年の全世界の乳幼児死亡者数は約20,000人/日が→2015年に16,000人/日に減少。死亡原因の83%が、感染症、先天性異常、栄養不良である。肺炎の疑いがある子どもの58%に適切な対応が出来、死亡者数減少に繋がった。

### B:妊婦死亡の現況

世界の平均死亡率※5は、1990年380人→2008年260人→2013年210人と減少しているが、尚、非常に高い(日本…42人)、(東南アジアでは2000年…240→2013年…190と低下)。2013年の死亡者数も303,000人と高値である。

高死亡率国はアフリカに多く、所得が低く、医療資源に乏しく、これらの国では都市部より農村部の死亡率が一層高く、妊婦のリスクは文明国の33倍も多い。

死亡原因は、出血、高血圧、感染と妊娠前の病気や栄養不良の悪化が主たるものである。また、熟練技術者が付き添ってないお産が27%、家族計画の無い出産が76%を占めている。これらはいずれも対策可能なものである。

ロータリーは、母子の健康を改善し、5歳未満の幼児の死亡率を減らすため右記の活動を支援しています。

1 5歳未満児の死亡率と罹患率の削減を目指し、5歳未満児、思春期の少女と女性への肺炎、下痢、マラリア、はしか等の予防接種施行

2 妊婦の死亡率と罹患率の削減を目標とする

- (1)妊婦の健康管理や健診、出産・分娩サービス
- (2)妊婦ケアに関する教育活動と併せて、診療所や病院への医療機器の提供

3 より多くの母子健康対策として地域で医療・保健活動の推進

- (1)母子の健康の専門家やリーダーと医療関係者の研修会や助産師養成の研修
- (2)両親と家族を対象にした、妊婦と子どものケアに関する教育活動
- (3)家族計画、疾病予防・減少への取り組み
- (4)特に思春期の少女に性の健康に関する教育と研修、HIVの母子感染予防
- (5)母乳の奨励、栄養失調を予防するための教育活動

2710地区では、①インドネシア・バリタマンRCへの血液銀行、婦人科検診車寄贈(広島東RC)②フィリピン・アンヘルス北RC・周産期医療支援(呉南RC)を実施し、③現在も進行中のボリビア水頭症児童支援プロジェクトは、2003年川妻二郎PGの英断で始まり、東広島21RC・西条RCの熱心な活動のおかげで多大な成果をあげて感謝されています。シャント造設1,000例の記念式典を2017年5月17日ラパスで開催予定で、日本、ボリビア、USA3ヶ国からロータリアンが集まります。都合の付く人はぜひ参加して、世界の友人と共にロータリーの醍醐味を堪能してみませんか。

次年度からは、再び地球環境保全への関心を更に高めて、新しい観点から、地域に、世界に目を向けて、「母子問題」も含めてニーズを拾い上げ、地域の仲間を集め、世界のロータリアンと連携して、次なるロータリー・マジックショーを愉しみに活動致しましょう。

※1 国連開発計画(UNDP)

※2 SDGs(sustainable development goals 持続可能な開発目標)

※3 出生1000人に対する新生児の死亡数

※4 出生1000人に対する5歳未満の子どもの死亡数

※5 妊婦100,000人に対する死亡者数



## ロータリー青少年交換プログラム 2016-17年度中四国3地区合同オリエンテーション報告 (2月4日(土)~5日(日)、倉敷シーサイドホテル)

2016-17年度国際ロータリー第2710地区 青少年交換委員長 大久保 雅通



標記オリエンテーションを開催致しましたので報告させていただきます。

当2710地区の青少年交換事業は、オリエンテーションと研修旅行を第2670地区(四国)、第2690地区(岡山・鳥取・島根)との3地区合同で行っており、今年度は私たちがこの二つの行事のお世話をしました。

オリエンテーションの目的は、次年度派遣予定学生がロータリーへの理解を深め、留学中の生活上の注意点を習得することが主なものです。地区を越えての学生同士の交流が深まることもたいへん意義深いと考えております。また今年度受入学生に対しては、日本に対する理解を深めることも目的の一つと考え、倉敷美観地区を中心としたエクスカーションもスケジュールに入れました。

今回は当地区から田原ガバナー、嶋本青少年奉仕委員長、福田・大久保・亀岡3名の青少年交換委員長、また当地区がお世話をするということで、広島中央ロータリークラブから松井青少年交換委員長補佐、事務局3名が参加しました。今年度のオリエンテーションの講師は根本佳織先生、鬼丸昌也先生のお二人で、昨年度も当オリエンテーションでお世話になった先生方です。お二人とも海外での支援活動のご経験が非常に豊富な方たちです。三地区から受入学生14名、派遣予定学生12名、ローテックス(学友)10名、ロータリアンを加えて総勢60名以上となりました。



2月4日は昼食ののち、休憩をはさんで3時間を超えるオリエンテーションが行われました。夕食後は学生が準備してきた自己アピールの時間で、それぞれが趣向を凝らした内容を発表してくれました。その後はローテックスも交えて学生同士

の交流会を行いました。派遣予定学生については、これから自分が留学する国の学生と情報交換を行うことがとても役に立つと感じました。

2月5日は受入学生とローテックスはエクスカーションに出かけ、派遣予定学生に対して午前3時間、午後2時間のオリエンテーションが行われました。当地区でも派遣前には数回のオリエンテーションを実施しておりますが、やはり集合形式で行われるオリエンテーションは、より学習効果が高まるものと思います。特に今年度はお二人の講師のご尽力により、ただ聴講するだけではなく、学生が自ら発言する機会を多く持つように配慮していただきました。例年よりも学生の心に、オリエンテーションの内容が深く刻まれたのではないかと感じました。



最後に田原ガバナーの閉会の挨拶をいただき、二日間にわたる内容の濃いオリエンテーションを無事終了しました。唯一想定外だったのは、帰りの瀬戸大橋線が踏切故障のため1時間近く遅れたことでした。幸いに遅れてきた特急(自由席)に乗ることができましたが、児島から岡山までずっと立ちっぱなしでした。

当地区が担当する4月の合同研修旅行についても、現在鋭意準備を進めているところです。地区ロータリアンの皆様におかれましては、青少年交換事業に引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。





## G4 IM報告

2016-17年度国際ロータリー第2710地区 G4ガバナー補佐 内富 敬厚

G4のIMは、『ロータリー財団100周年記念』として、2月4日(土)来賓に、田原榮一ガバナー、藤中秀幸ガバナーエレクト、藤村哲一次年度ガバナー補佐をお迎えし、会員146名の参加を得て開催しました。

オープニングは『ロータリー財団 人々の心に触れた100年』のDVD視聴からスタートしました。

『研修の場』本会議は、基調講演と各クラブ活動報告の構成でしたが、メインテーマは、『がん予防の取り組み』です。



山口県健康福祉部健康増進課長 喜多洋輔氏の基調講演は、『共に取り組む がん予防対策～国と県とロータリアン』の演題で、冒頭、厚労省からWHOジュネーブ本部へ派遣されていた当時よりロータリーが『世界ポリオ撲滅推進活動』の先駆けとなって来たことに謝意を表したかったと話されました。数多くの先達の努力で、撲滅まであと少しのポリオ。WHO関係者からの謝意の表明は、我々にとっても嬉しいことでした。本論の「がんの予防対策」については、国と県の「がん対策基本計画」、特に山口県の現状と取組みについて、又、禁煙、バランスのとれた食生活、定期的ながん検診等の重要性と適度な運動による「健康づくり」の大切さを呼びかけられました。

続いて各クラブからは、メインテーマに加えて、ガバナー公式訪問フォーラムの議題から 1つ以上を選んで活動発表がありました。

徳山RC—メインテーマでは、医師である会長が「職業奉仕」として会長の時間を活用、又ゲストの卓話(年3~4回)を企画して、“がん”的啓蒙活動推進。さらに会員の「職業奉仕」として、ベトナムの孤児院慰問—国際奉仕、小学校への出前授業—青少年奉仕、大津島桜植樹—社会奉仕の発表。



徳山東RC—メインテーマでは、「がん予防“新12か条”」普及のため例会場に掲示した上、会員用の掲示パネルと名刺サイズ

カードを制作。がん予防の“市民健康公開講座”を他団体と共に開催(約250名参加)。「戦略計画」—前後4代の会長と前後3代の幹事を中心に戦略委員会設置、中長期の課題を議論。

周南西RC—メインテーマでは、喫煙に関する会員アンケートを実施し、会員個人から事業所内の喫煙実態まで詳細に分析。「会員増強」—今年度の目標新入会員10名、候補者リスト(30~40名)をもとに会長・幹事を中心に全員で取り組んだ結果、みごと達成!!

光RC—メインテーマでは、医師会員及び山口県、光市からのゲストスピーチで例会勉強会を実施。創立35周年記念として、乳がんをテーマに市民セミナーを開催し、乳がん触診モデルを光市に寄贈。「R財団100周年記念事業」—100%ポールハリスフェロークラブを目指し、みごと達成!!認定取得。

徳山セントラルRC—メインテーマでは、例会に県健康福祉部からゲスト卓話。医師会員による(婦人病としてのがん)をテーマに夫人同伴例会を予定。「R財団100周年記念」—児童養護施設に地区補助金を活用し釣り道具を寄贈、子供たちと釣り大会。海の日に小学生を招待して自動車運搬船乗船行事etc.

各クラブの発表とも素晴らしい(田原G総評)又その活動の多くが地元メディアに取り上げられ、『公共イメージと認知度の向上』に大いに寄与しました。



『親睦の場』懇親会は、自閉症のハンディを抱えながらマリンバ演奏を続ける若者の軽やかな音で肩をほぐし、藤中GEのご発声、本場シャンパンで乾杯。日本ソムリエ協会の名誉ソムリエである田原Gご推薦の極上ワインとヴァイオリン・ピアノ・ソプラノのアンサンブルで、親睦は、大いに深まりました。

最後に、誌面をお借りして感謝申し上げます。発表準備をされた5クラブの会長・幹事やご関係の皆様、ご多忙の中ご参会頂いたロータリアン各位、ホストクラブとして「オモテナシ」に共に汗をかいて頂きました徳山セントラルRCの皆様、ありがとうございました。





## G8 IM報告

2016-17年度国際ロータリー第2710地区 G8ガバナー補佐 山本 清

2017年2月11日(土)国際ロータリー第2710地区グループ8のインテリシティーミーティング(IM)を国際ロータリー第2710地区から田原ガバナー、大之木パストガバナー、藤中ガバナーエレクト、橋本地区代表幹事、そして基調講演並びにパネルディスカッションのコーディネーターをお引き受け頂きました。地区がん予防推進委員も務めておられます、独立行政法人 国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター 病院長 谷山 清己先生、そして258名のロータリアンの皆様の登録を頂き盛大に開催させて頂きました。

さてIMは近隣の数クラブが集まって開催される会合でその目的はロータリーの特徴やプログラムなどを検討し、会員相互の親睦と知識を広めることであります。

今年度田原ガバナーは我が国が抱える大きな社会問題“2025年に団塊世代が後期高齢者となり、がん難民が大発生し3人に2人ががんにかかる”と言ういわゆる2025年問題対して国際ロータリー戦略計画の重点分野「疾病予防と治療」に相当する「がん予防の普及推進」を3年間の地区戦略計画として立ち上げられ、地区奉仕プロジェクト委員会の中に「がん予防推進委員会」を設置されました。

その目的は「がん予防の普及推進」の実践を通じて、がんになっても安心して働き暮らせるよう、自己責任に基づく健康管理を目指すものであります。強調したいことは、がんとがん教育は健康に生きるために地域づくりであり、ロータリアン自身のみならず、家庭、職場、地域社会の人々の命を守り、さらにロータリーの将来を担う次世代の人達が健康に生きるために必要なことでありますと強調されています。

この方針に基づき今年度のグループ8 IMのテーマを「が

ん予防とがん教育は健康に生きるために地域づくり」とさせて頂き、第1部は呉医療センター・中国がんセンター病院長の谷山 清己先生の基調講演「がん予防」、そして第2部はテーマを「人はがんとどう向き合うか?」としてパネルディスカッションを実施させて頂きました。

基調講演では谷山 清己先生から①“がん”とは②“がん”による死亡率・罹患率③“がん”的治療法(手術療法・化学療法・放射線療法・免疫療法)④“がん”検診⑤“がん”治療に最適な良い病院の特徴⑥“がん”的一次予防(健康習慣)二次予防(早期発見)⑦“がん”を防ぐための新12ヶ条について等、盛りだくさんのお話をさせて頂きました。

第2部のパネルディスカッション「人はがんとどう向き合うか?」では各パネリストから御自身の体験談を話して戴き谷山コーディネーターからコメント・御指導を戴きました。非常にデリケートなテーマの為、パネリストの皆様には大変な心労をお掛け致しましたが、参加して頂いたロータリアンの心に響く、そして真剣にがん予防に取り組むきっかけ作りとなるパネルディスカッションとなりました。

そして第3部は呉南ロータリークラブ会員の手作りの懇親会でおもてなしさせて頂きましたとの懇親を深め楽しい一時を過ごす事が出来ました。これも基調講演の講師、パネルディスカッションのコーディネーターを務めて頂きました谷山 清己先生、がん予防の必要性・生の声を伝えて頂くために無理をおしてお引き受け頂きましたパネリストの皆様、真剣に話を聴講して頂きました沢山のロータリアンの皆様、そして運営に携わって頂きました呉南ロータリークラブの皆様のお蔭です。全ての皆さんに感謝・感謝で報告とさせて頂きます。





## G1G2合同IM報告

2016-17年度国際ロータリー第2710地区 G1ガバナー補佐

宮崎 隆  
田村 充正

2016-17年度国際ロータリー第2710地区 G2ガバナー補佐



グループ1グループ2の合同IMは、グループ1下関市、長門市6クラブ239名の全員登録とグループ2の萩市、美祢市、宇部市、小野田市7クラブ217名、合計456名の登録をいただき、2017年2月18日(土)午後2時より下関のシーモールホール及びシーモールパレスにおいて開催いたしました。

ご来賓としてガバナー田原栄一様、パストガバナー永富稔様、金子信様、沖田哲義様、東良輝様をお迎えしました。

基調講演第1部は我が下関ロータリークラブのがん予防推進委員会の山口県担当でもある下関医療センター院長佐々木功典会員による「がんを知って予防する」という演題で会員に警鐘を鳴らしていただきました。会員一同、皆共感し、45分の講演時間があつという間に終了致しました。



続いて第2部の基調講演の講師としてお招きした、親子をつなぐ学びのスペース「リレイト」代表で二宮金次郎七代目子孫である中桐万里子様に「二宮金次郎にみる奉仕とリーダーシップ」で職業奉仕について大変わかり易く楽しく会場を巻き込みながら講演していただきました。1時間の講演時間を10分オーバーしたにもかかわらず、会員一同皆熱心に

講演を聴かせていただきました。

中桐先生をご紹介いただいたグループ2の田村ガバナー補佐様、大変有難うございました。サプライズでご用意された二宮金次郎爺の銅像に先生も大変喜んでおられたように思います。

第3部のパネルディスカッションではグループ1より2クラブ、グループ2より3クラブの代表に出席していただき、がん予防と職業奉仕についての各クラブの実績と進捗状況の発表をしていただきました。皆さん、他クラブがどのような活動をしているか参考にされ、ためになったのではないかと思われます。

第4部の懇親会は主管クラブ下関RC会長藤田靖様の挨拶とパストガバナー沖田哲義様のちょっと長めの乾杯の音頭をいただき、親睦と友情を深める懇親会を開催致しました。アトラクションとして、我が下関ロータリークラブメンバーである古田会員の早鞆学園高校の平家太鼓部による勇壮な平家太鼓を披露していただきました。

また最後に閉会の言葉をいただいた萩ロータリークラブの田中会長様、大変ウイットにとんだ素晴らしい締めの挨拶をしていただき、心地よい閉会となりました。有難うございました。

今回IMのテーマは田原ガバナーが提唱されておられる「がん予防と職業奉仕」として開催させていただきましたが、皆さん、どのように感じられましたでしょうか。我々は参加してよかったですと思われるIMを開催する為に、「聴いて良かったと思われる講師と、食べてよかったですと思われる美味しい料理」この二つを念頭に置き準備させていただきました。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。





## 新会員紹介



宮内 弘昭

下関東RC  
2017年2月9日  
船舶電装業

蓮住 俊寛

下関東RC  
2017年3月2日  
仏教

田村 健児

下関北RC  
2017年2月14日  
地方銀行業

中村 富子

広島安佐RC  
2017年2月2日  
デザイナー

竹本 耕

広島東南RC  
2017年2月6日  
警備業

吉田 範子

広島東南RC  
2017年2月27日  
衣服卸売業

藤本 崇

庄原RC  
2017年2月14日  
コンビニエンスストアー

新会員名

所属RC  
入会日  
職業分類文庫  
通信

354号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万4千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

## 忘れ得ぬロータリアン(3)

「ロータリーの黎明 ポール・ピー・ハリス」	宮脇 富	1967	3p
「第1号ロータリークラブ誕生 シルベスター・シール」	宮脇 富	1967	3p
「ロータリーと歌 ハリー・ラッグルス」	宮脇 富	1967	3p
「ラッグルスの回顧録」	宮脇 富	1967	3p
「冒險と挑戦 チェスリー R・ベリー」	宮脇 富	1967	3p
「ロータリー定礎の三人」	塚本義隆編	1979	42p
「献身的ロータリアン群像」	松本兼二郎	1979	8p
「我が自叙伝」	ハーバート J. テーラー著:菅野多利雄訳	1990	219p
「ロータリー財団の父 アーチ C. クランフの人となり」	鳴海淳郎	2000	9p
「奉仕理念の提唱者 アーサー・フレデリック・シェルドン」	田中 毅	2002	85p

[上記申込先] ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階 TEL(03)3433-6456・FAX(03)3459-7506

http://www.rotary-bunko.gr.jp/ 開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

国際ロータリー  
第2710地区 事務局〒732-0822 広島市南区松原町1-5 ホテルグランヴィア広島6F  
TEL:082-506-0055 FAX:082-263-2323 E-mail:info@ri2710.com URL:http://ri2710.com/